建てる前に考える

本当のバリアフリー住宅

ここ数年に間でバリアフリーという言葉を目にする機会が本当に増えましたよね？
高齢化社会となってきた、マイホームづくりでもお年寄りや体が不自由な人も快適に過ごせる住宅を！
という考えが本当に浸透してきました。

住宅会社のパンフレットやチラシには「バリアフリー住宅！」と大々的に宣伝していたりしているものもあります。定番の仕様としては、段差をなくしたり、階段やバスルームに手すりを付けるといったものが多いですね。

でも、本当のバリアフリー住宅ってこれだけでいいのでしょうか？

今のあなたの家の段差をなくして、それからお風呂場・トイレ・階段に手すりを付ければおじいちゃん、おばあちゃんが安心して楽に住めますか？

例えば玄関。玄関のドアまでに、段差はありませんか？

若いあなたは何ともないけれど、足の悪いおばあちゃんにとってはその段差を一步ずつ「よいっしょ、よいっしょ」とつぶやきながら登らなければいけないのです。

玄関に入れば靴を脱いでサッサと上がればいいのでしょうか…。

しかし、お年を召した方は手荷物をまず置き、座って靴を脱がなければいけないのです。その靴を脱ぐために座る場所もほどよい高さじゃないと逆に大変。

これはもしかしたら、あなたが臨月を迎えた妊婦さんだったらお解かりになるのでは？

やっと玄関に入り、おばあちゃんの部屋が家の奥の方だったら…。

やっぱり、玄関に近いほうが楽ですよ？

もちろん！部屋からトイレだって近くないと夜は大変！

バリアフリーとは、手すりを付けて、段差をなくすことではないはず！

敷地の使い方、室内での動線のこと、階段の傾斜やステップの幅、間取りの置き方など色々あります。

お年寄りが快適に生活するためには細やかな神経を使って工夫すべきだと思います。

手すりや段差を無くしただけでバリアフリーなんて本当のバリアフリーとは言えないんじゃないでしょうか？

あなたがもしバリアフリーの家を考えているのなら、設計者がどこまで細やかに考え、工夫してプランを作っているのか話し合ってください。

設計者の「バリアフリーに対する考え方」というものを聞いてみてください。